

明けましておめでとうございます。
謹んで新年のお祝いを申し上げます。

新年を迎え、元旦の新聞に先程目を通しました。大晦日のコロナウィルス感染者数が全国で4,520人確認され、一日における過去最多数を大幅に更新したと書いてありました。第三波ということで、今までとは異なるスピードで急激に全国に感染が広がっており、新年がスタートしたというのに、憂鬱な元旦の朝になります。

一方で、拙宅の窓から見える元日の日の出は素晴らしく、自然と手を合わせるほどです。こんなに大きくて温かいお日様を暫くじっと見ていると、「やはり、頑張っていこう」という思いが湧き上がってきます。

感染拡大で外出を控えざるを得なくなり、消費活動が変わり、外食・小売業等が落ち込み、観光客が激減することで観光業が大打撃を受けています。その他ほとんどの産業においても、売上が落ち、倒産する企業も多数出ている状況になっています。ここはみんなで力を合わせて、この危機を乗り越えていくしかありません。

そうした中で、現政権が生産性の低い中小企業の再編成を考えています。中小企業の生産性の低さが欧米企業に対抗できない元凶とし、中小企業を再編して、大企業や中堅企業に収斂・移行するようなことも言い出しているようです。果たして、企業とはなんなのでしょうか。企業は、欧米型の効率を中心に運営されるべきものでは、決してありません。今流行りのSDGsの時代においても、企業は社会の構成員の一つとして考えられ、持続可能な社会の構築に向けて、積極的に取り組む主体でもあります。つまり、企業とは仕事面だけにフォーカスするのではなく、地域社会、文化・芸術、歴史、教育等の様々な大きなアンブレラの下で運営・維持されていくものです。コロナ禍の中で感じることは、地域社会での取り組み、人々の繋がり、豊かな自然、歴史ある建造物、美味しい食材等々がそこに住んでいる人々の心を満足させ、逆境から立ち上がる力をかき立てるということです。生産効率を重要視する大企業、中堅企業ではこういう力はなかなか生まれず、寧ろ中小企業に従事する方々が強く保持しているものです。かつて大企業に長年勤めてきた自分自身を振り返ってみても、そのことは実感として感じるどころです。大企業、中堅企業目線からの取り組みが、地域社会に受け入れられることが少ないのはある意味当然であり、だからこそ中小企業の重要性や立ち位置を今こそみんなでもう一度整理して理解する時なのかもしれません。欧米型の効率中心社会から脱却して、身の丈に合った生活様式に変えていくようにみんなで努力し、家族一緒の時間を増やし、心穏やかでゆとりのある生活が過ごせるようにしたいものです。

コロナウィルス感染が広がることで我々の仕事のスタイルは変貌しました。まず通勤を控えるようになって、在宅勤務が増えました。そして、直接会って面談することは

極端に減り、WEB会議が浸透しました。わかったことは「毎日会社へ行き、会議・面談をして仕事を遂行する」という過去何十年と続けてきた従来の仕事のスタイルは必ずしもベストではないということでした。「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）は、時代と取り巻く環境により変わってきます。やはり、固定観念では時代を生き抜くことはできないということでしょう。先の見えない不確定な時代には、新しい視点での発想を常に持つことが必要になります。

弊社が関係している気仙沼市（<https://crewship.net>）は、昨年コロナ禍で全国の地域商店街等の消費額が低迷している中、売上が大幅に伸びた地域ということで大きな話題になりました。その主な理由として、弊社システムを利用した地域データベースを構築し、データベース・マーケティングを展開したことが挙げられています。全国で初めてのこの新しい試みは、大変評価を受け、現在その他の地域からも様々な問い合わせを受けています。昨年のように、観光客が激減し、地方消費も大幅に落ち込むなど、想定もしていなかった状況においては、従来のイベント中心の地域戦略では全く対応できません。地域全体で構築した顧客データベースを活用して、新しい視点・発想に基づく ONE to ONE マーケティングやダイレクト・マーケティングを展開することで販売促進の活路を見出すことができたのです。

今年も全国の地域活性化に取り組まれている皆様のお手伝いができますよう、より一層励んで参ります。引き続き、皆様方の温かいご支援・ご愛顧をお願い申し上げます。

令和3年元旦

株式会社サイモンズ
代表取締役社長
齊川 満



(河口湖から見た富士山：昨年11月撮影)